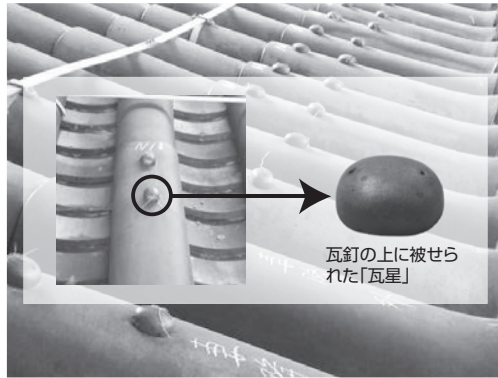




御影堂門扉に施されている銑金物

また、今回の御影堂門への調査においては、屋根の瓦の調査にあわせて、銑金物の成分調査や木部の腐朽状況の調査も行っています。銑金物の成分調査では、二〇一一年十月号でも既報のとおり、蛍



瓦釘の上に被せられた「瓦星」

が進められます。今後、御影堂門についての調査が進められ、御影堂や阿弥陀堂と違った特徴的な箇所も確認しながら、修復に向けた準備が進められます。

光X線分析装置の携帯成分分析計という最新の機器を用いて、金物の成分を調べました。数秒間金物の成分を照射するだけで瞬時に金物の表層部分の成分割合を算出することができ、一部をそぎ落としたりして成分分析をする必要がなくなり、金物を傷めることなく、簡易に調査ができます。これにより、御影堂門が建てられた当時の金箔の使用有無を明らかにすることができました。



携帯蛍光X線分析装置

### 渉成園 初冬の自然観察会を開催！

さる2012年12月8日、東本願寺の飛地境内地である「渉成園(枳殻邸)」において、東本願寺と環境を考える市民プロジェクト主催による「渉成園 初冬の自然観察会」が開催されました。園内には、たくさんの植物やいきものが生息していますが、秋も終わり木枯らしも吹くこの季節には、寒さの中にもさまざまな表情が見られました。

参加者は、板倉豊氏(京都精華大学教授・森林インストラクター)の説明に聞き入り、または、渉成園内にある木や葉っぱ、木の実やどんぐりなどを一つずつ観察しながら、園内をゆっくり見て回りました。

今回の自然観察会では、植物などの観察に加え、それぞれが園内でひろった落ち葉などをケースに貼り付け、板倉先生の指導のもと、植物の説明を書き入れていくなどして、自分だけの立体植物図鑑を作りました。参加者それぞれが一生懸命になって思い思いの図鑑を作り、完成した作品に満足げな笑顔が見られました。



池の鯉をみんなで観察

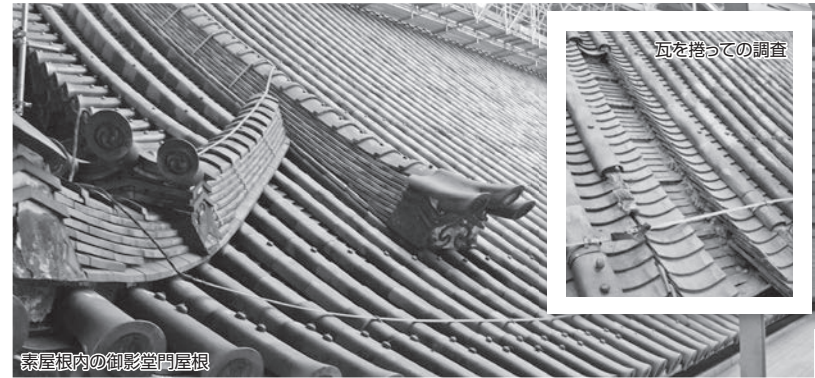


自分だけの植物図鑑を作成中

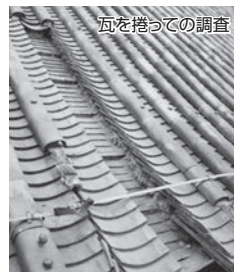


# 御修復のあゆみ 〱 伝承された先達の願い 〱

## 御影堂門の修復に向けた調査が進む



素屋根内の御影堂門屋根



瓦を捲っての調査

本誌二〇一二年十一月号にて既報のとおり、二〇一二年九月末に御影堂門を覆う素屋根が完成し、以降、専門工事に着手するための詳細な調査が本格的に開始されました。現在の調査では、御影堂門に葺かれている瓦を部分的に降ろし、瓦の損傷や屋根下地の土居葺き板の腐朽具合の確認が進められています。調査結果では、丸瓦や平瓦、軒先の瓦、棟につまっていた鬘斗瓦などについては、特に大きな損傷が確認されず、御影堂や阿弥陀堂に比べ損傷は少ないことが確認されました。



軒先の出が長い



下から2枚目の軒平瓦が長い！

なお、調査の過程において、御影堂門は屋根の曲線が強調されるつくりとなっていることから、軒先から出ている瓦の幅が御影堂や阿弥陀堂の倍程度あることが特徴の一つとして確認されました。出幅が通常の倍ということから、特に、軒先の瓦(軒丸瓦や軒平瓦)については、他ではあまり見られない非常に長い瓦が使われており、瓦が落ちてしまわないような工夫がされていました。また、丸瓦を固定するために、御影堂や阿弥陀堂の屋根と同様に長い真鍮製の釘が使われているのですが、釘を伝って雨が瓦の中に染み込まないように、御影堂や阿弥陀堂は瓦釘を覆うように銅製のキャップがつけられていました。ところが御影堂門では、「瓦星」という瓦でつくられたキャップが瓦釘の上に被せられており、これもまた、特徴の一つであることが確認されました。